

# 環境の変化理解し、活動活性化を

## 27年度道青少年育成大会開催

### 道青少年育成協会

公益財団法人道青少年育成協会(佐々木亮子会長)は三日、札幌市内のかでる2・7で二十

七年度北海道青少年育成大会を開催した「写真」。全道から四百人が参加。「少年の主張」や防犯に関する講演などを通して、青少年を取り巻く環境の変化について共通理解を図るとともに、青少年育成活動の活性化に向け、気持ちを新たにしていた。

全道の青少年育成関係者の推進を呼びかける大会。一堂に会し、青少年を取り巻く諸問題についての認識を深めるとともに、各地区代表による「少年の主張」に耳を傾け、現代の青少年に対する理解を深めることよって、各地域における青少年育成活動の一層

の推進を呼びかける大会。道などが共催した。開会に当たり、佐々木会長があいさつ。「皆さんはこれまで、「地域の子どもは地域で育てる」という考えのもと、あいさつ運動をはじめ、非行防止の巡回パトロール、体験活動や

居場所づくりなど、様々な活動に取り組んできた」とし、関係者の取組や役割の重要性が増していることを強調した。大阪府で中学生二人が殺害された事件についてもふれ、「青少年をいかに守るかが課題。子どもを守り育

むために地域で何をすべきかヒントをもち帰って」と呼びかけた。次いで、あいさつに立つた道環境生活部の宮川秀明部長は、道内の刑法犯として検挙された二十人のうち十四歳未満が三割を占めることを憂慮。スマートフォン



道青少年育成協会(佐々木亮子会長)は三日、札幌市内のかでる2・7で二十七年度北海道青少年育成大会を開催した「写真」。

### 「障害」と共に暮らす社会

前田ほの香さん(道教育大 附属札幌中)

最優秀賞

二十七年度「少年の主張」全道大会では、道教育大学附属札幌中学校の前田ほの香さん(三年)が最優秀賞に輝いた「写真」。前田さんは「障害」と共に暮らす社会」と題して発表。障害をもつ人のことを多くの人が理解し、誰もが過ごしやすい社会にしたいと意気込みを語った。

審査の結果、「障害」と共に暮らす社会」と題して発表した道教育大附属札幌中の前田さんが最優秀賞を獲得。優秀賞には、石狩地区代表の千歳市立勇舞中学校三



審査委員長を務めた札幌市立羊丘中学校の鹿野内憲一校長は「皆、素晴らしい発表だった。人への感謝や

思いやり、家族愛、不屈の精神など土台が主張の中にあった」とたたえ、「これからのリーダーとして活躍するよう期待を寄せた。なお、最優秀賞の前田さんは、北海道代表として、北海道・東北ブロック代表選考に推薦。主張原稿・録音テープでの審査を経て、十一月に東京都で開かれる全国大会の代表者が選出される。



前田ほの香さん

最優秀賞に選ばれた道教育大附属札幌中学校の前田ほの香さん(三年)の発表の概要はつぎのとおり。

私は、ダウン症の弟がいます。健常者比べて発達が遅く、いまは小学四年生ですが足し算や引き算を勉強しています。弟がいることで私は世の中にあるいろいろな障害や病気を知りました。そして、障害のある方々やその家族など、たくさんの人とかかわってきました。

「障害」による生きづらさや、苦勞も見えてきました。その一方で、障害がある方々と一緒に遊んだり、何かをつくったりすることの楽しさも知りました。そ

の「障害」といって中絶する人が絶えないのではありませんか。私は「世の中の障害に対してのイメージに問題がある

の二つ一つが私にとってとてもいい経験です。さて、皆さんは「出生前診断」を知っていますか。お腹の中の赤ちゃんが産まれてくる前に、ダウン症などの染色体異常があるか分かるというものです。六月二十九日の朝日新聞の記事によると、二〇一三年四月から二〇一五年三月までに一万七千八百人が出生前診断を受診し、二百三十人が胎児に異常があると確定、中絶をしたそうです。

異常が確定した人を四十人のクラスに例えると、そのうち約三十八人が中絶したことになります。しかし、私は障害があるからという理由で命を捨てるのはいいと思いません。なぜ「障害」というだけで中絶する人が絶えないのでしょうか。

私は「世の中の障害に対してのイメージに問題がある

るのではないか」と思っています。私は通学に電車を利用してはいますが、時折、電車の中で障害のある方を見かけます。中には、隣に座っている人いきなり話しかけたり、一人で何かを話している人もいます。その時、周りにいる人を見てみると、冷たい目でその障害のある方を見ていたり、数名でなにかをこそこそと話し始めたり、だんだんとその方から離れていったりすることがあります。「自分たちとは違う人」「よく分からないからかわりたくない」とそんな思いがありませんか。その思いが、障害のある方々やその家族が生きている理由ではないのでしょうか。

つです。私の将来の夢は医者になることです。母と、弟が産まれたときの話をしたことがありません。母は「ダウン症だって分かったときは、やっぱりショックだったよ」と言っていました。障害のある子を産んだお母さん方やその家

族はやはりショックを受けるといいます。そのとき、私が障害者と共に暮らしてきた一人として、医者として、お母さん方のそばにいてその良さを話したり、相談にのるなどしてショックを軽減してあげたい。これからの生活に希望をもたせ

てあげたい。そう思っています。また、その子本人とも向き合い、毎日を楽しんで過ごせるようサポートしていきたいです。障害のある弟がいなければ、こうした夢をもつこともなかったでしょう。障害のある方々も過ごしやすい社会になっていくことを願っています。

「障害」といって中絶する人が絶えないのではありませんか。私は「世の中の障害に対してのイメージに問題がある

#### 10月3日研究大会

道教育大附属旭川幼稚園

【旭川発】道教育大学と道教育大附属旭川幼稚園(杉江光園長)は、十月三日午前八時四十分から同園で二十七年教育研究大会を開催する。研究主題「幼児の内面に向き合う」のもと、公開保育や研究発表などを予定。このほか、玉川大学教育学部の大豆生田啓友教授が「いま、求められる幼児教育の質」と題して講演する。参加費一千五百円。道教委、旭川市教委

【小樽発】「第九回為末小樽市手宮小の閉校記念授業

【小樽発】「第九回為末小樽市手宮小の閉校記念授業

【小樽発】「第九回為末小樽市手宮小の閉校記念授業

【小樽発】「第九回為末小樽市手宮小の閉校記念授業

【小樽発】「第九回為末小樽市手宮小の閉校記念授業

【小樽発】「第九回為末小樽市手宮小の閉校記念授業

**道通ビル 入居者募集**

貸事務所、貸店舗

お問い合わせは

**北海道通信ビル株式会社**

札幌市中央区北五条西六丁目  
電話(011)221-1331(一六番)

http://dotsu-bldg.net